

## 1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	66	10.2
80～89	125	19.2
70～79	114	17.5
60～69	99	15.2
50～59	91	14.0
40～49	83	12.8
30～39	37	5.7
20～29	25	3.8
10～19	10	1.5
1～9	0	0.0
0	0	0.0

\*合格者の中から、無作為に抽出した650人(12.7%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率

大問	小問	正答率
1	1	No.1 54.9
		No.2 74.5
		No.3 90.9
	2	ア 66.2
		イ 87.5
		ウ 75.7
	3	No.1 96.9
		No.2 71.9
		No.3 94.1
		No.4 94.9
小計		82.2
2	① 83.5	
	② 86.8	
	③ 74.2	
	④ 75.1	
	⑤ 76.5	
	⑥ 84.9	
	小計	

大問	小問	正答率	
3	1	イ 86.5	
		オ 82.9	
	2	32.6	
小計		61.0	
4	1	(1) 51.9	
		(2) 64.8	
		(3) 37.9	
	2	② 65.0	
		③ 49.9	
		小計	
5	1	(1) 85.4	
		(2) 74.5	
		(3) 45.4	
	2	72.0	
	3	46.8	
	4	38.5	
	5	61.0	
	6	83.0	
	7	1 64.0	
		2 63.6	
		3 2.7	
		4 13.4	
	小計		56.0

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
1 リスニング	76.4	50.8	53.6	57.3	82.2
2 対話文読解	80.4	59.5	57.6	62.4	80.2
3 対話文、文法・理解※	69.0	59.9	64.2	83.0	61.0
4 表現力	45.2	46.8	40.4	52.8	53.5
5 長文読解	56.9	45.8	37.8	37.6	56.0

※平成20年度以降の3の内容については、長文読解、表現力・文法となっている。

## 2 分析結果の概要

〈表1〉について、20点台と30点台の得点層が、それぞれ3.8%、5.7%となっており、昨年度の11.1%と16.7%と比較して減少している。90点台は増加し10.2%となっており（昨年度2.9%）、その次の層である70点台から80点台の層が36.8%とかなり増加している（昨年度21.0%）。

〈表2〉対話文読解の2は80.2%と昨年度と比較して大幅に上昇したものの（昨年度62.4%）、「長文読解、表現力・文法」を問う3は、昨年度と比較して正答率が61.0%とかなり低くなっている。（昨年度83.0%）。「読むこと」の領域に関する5の問題の正答率は56.0%と大幅に高くなっている（昨年度37.6%）。

〈表3〉について、リスニングの力を問う1と表現力を問う4は、この5年間で最も高い正答率となっている。

### 3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小 問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点						
				記号 選択	記述 ～ 英語	記述 ～日 本語	関心 意欲 態度	表現 の 能力	理解 の 能力	知識 理解			
1	1	No.1	身近な話題についての会話文を聞いて、その内容に合う絵を選ぶことができる。	○					●	●			
		No.2											
		No.3											
	2	ア イ ウ	聞くこと	短めの英文を聞いて、空所に聞き取った語句を正確に書くことができる。		○					●		
	3	No.1 No.2 No.3 No.4	比較的長い文章を聞いて、その内容を理解し、設問に答えることができる。		○						●		
	2	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	読むこと	会話文を読んで、その内容を理解し、英文を適切に並べかえて会話文を構成することができる。	○				●		●		
3	1 2	読むこと	英文を読み、その内容に合う日本語を選んだり、英文を自然な流れになるように並びかえたりすることができる。	○				●		●			
4	1	書くこと	(1) 指示された語句を適切に並べかえて、数をたずねる文を書くことができる。	○						●			
			(2) 指示された語句を適切に並べかえて、比較級の文を書くことができる。	○							●		
			(3) 指示された語句を適切に並べかえて、分詞を使った文を書くことができる。	○				●			●		
	2	書くこと	② 初歩的な英語を用いて、自分の考えを英語で表現できる。	○				●	●				
			③ 短い文章の中で、自分の考えを英語で表現できる。	○				●	●				
5	1		(1) 本文の内容に対する質問に対して、適切なものを選ぶことができる。	○						●			
			(2) 本文の内容に対する質問に対して、適切なものを選ぶことができる。	○							●		
			(3) 本文の内容に対する質問に対して、適切なものを選ぶことができる。	○							●		
	2	読むこと	2 長文の中で、下線部分が指す内容を読み取り日本語で説明することができる。			○			●	●			
			3 長文の中で、下線部分が指す内容を読み取り日本語で訳出することができる。			○			●	●			
			4 長文の中で、下線部分が指す内容を読み取り適切でないものを選ぶことができる。	○						●			
			5 本文の内容を理解し、2つの空所に共通して入る単語を適切に選ぶことができる。	○						●	●		
			6 本文の内容を理解し、空所に入る適切な英文を選ぶことができる。	○					●	●			
			7	1 2 3 4	本文の内容を理解し、その要約文の空所に適切な単語を挿入することができる。		○				●	●	●

#### 4 標準解答及び考察

##### 1 〈標準解答〉

1	No.1	ウ	No.2	ア	No.3	イ	
2	ア	fifty		イ	summer		
	ウ	get	;	up	;	at	
3	No.1	ア	No.2	エ	No.3	イ	No.4 エ

##### 〈ねらい〉

身近な話題についての英文を聞き、内容に合う絵を選んだり、聞き取った語句を書き取ったり、内容に関する質問の答えを選んだりすることを通して、具体的な内容や大切な部分を聞き取る能力をみる。

##### 〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、82.2%と昨年よりかなり上昇した（昨年度57.3%）。
- ・ 1の対話「プレゼント」、「交通手段」、「猫」の話題に対して適切な絵を選択する問題は、正答率の平均が73.4%で、昨年度の92.3%より低いものの、日常的な場面設定での短い対話文についての聞き取る力は定着しつつある。
- ・ 2の聞き取った語句を書き取る問題については、無解答はほとんどいなかった。イの正答率は、87.5%で、誤答として Summer、sammer、sumer が多くみられた。アの正答率は66.2%で、fifteen を書いた誤答が多く見られた。ウは語と語の連結による音変化を聞き取る力をみる問題であるが、正答率が75.7%と高かった。
- ・ 3の No.2は聞き取った内容をもとに、情報を組み合わせて答えを導き出す問題で、No.1、No.3、No.4の90%台と比較して、正答率は71.9%であった。

##### 〈今後の指導〉

- ・ 日常生活にかかわる基本的な語彙や文法事項については、聞いたり話したりするだけでなく、書き取りまでできるように繰り返し指導し、習熟させる。
- ・ 語と語の連結による音変化については、授業中にその聞き取りと読み方に注目させ指導する。特にALTとの授業において発音指導を効果的に行う。
- ・ 具体的な内容や大切な部分を聞き取ることができるよう、聞き取りのための様々な場面や機会を設定して繰り返し練習を行う。

##### 2 〈標準解答〉

①	カ	②	ア	③	キ
④	エ	⑤	ウ	⑥	イ

##### 〈ねらい〉

身近な話題についての会話文を読み、話の流れに合っている英文を選ぶことを通して、話の内容を理解し会話を構成する力をみる。

##### 〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、80.2%と昨年度よりかなり高い（昨年度62.4%）。
- ・ 正答率は、②が86.8%、⑥は84.9%と高いが、③のように空所の前の文と、そのあとにくる文の流れを理解して選択する問題では、正答率は74.2%と下がる傾向にある。

##### 〈今後の指導〉

- ・ 会話でよく使われる表現については、実際に使う場面を設定して練習をさせる。
- ・ 文章を読む際には文脈に注意させ、特に会話文においては話の流れを理解しながら読む習慣を付けさせる。
- ・ 社会の変化に目を向け、特に時事問題については、日頃から適宜情報提供を行い、興味関心の幅を広げる工夫をする。また、その話題について、調べ学習やスピーチなどを

行い、自分の考えを表現できる機会を増やす。

**③** 〈標準解答〉

1	イ ; オ
2	① (ウ) → ② (ア) → ③ (エ) → ④ (イ)

〈ねらい〉

英文を読み、その内容に合うような日本語の文を選んだり、英文が自然な流れになるように段落を適切な順番に並べかえたりすることを通して、その内容を読み取る能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、61.0%と昨年度よりかなり低い（昨年度83.0%）。
- ・ 1の内容を読み取る問題の正答率は、イが86.5%、オが82.9%とかなり高い。
- ・ 2の英文を適切に並べかえる問題は、正答率が32.6%と低く、短い英文の文脈を読み取る力が不足していると考えられる。

〈今後の指導〉

- ・ 授業では Classroom English を使い、身近な話題を取り上げ、small talk や speech などを実践することで表現に習熟させる。
- ・ 内容を文脈から理解できるように、段落ごとに内容を要約させるなどの活動を通じて段落構成に慣れさせる。

**④** 〈標準解答〉

1	(1)	How ( many balls are there in ) the box ?
	(2)	Your bag ( is not as heavy as mine ) .
	(3)	That little ( boy wearing a cap is ) my brother .
2	①	I want to visit ( (例) Australia )
	②	because ( (例) I can see many famous animals (6語) ) .
	③	(例) I will study English harder because I want to talk with foreign people in English. (15語)

〈ねらい〉

場面に応じて、指示された語句を並べかえて適切な英文を作ったり、与えられた情報をもとに、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書いたりすることを通して、表現する能力をみる。

〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、53.5%と昨年よりやや高い（昨年度52.8%）。
- ・ 1の(1)の正答率は、51.9%である。基本的な表現についてはさらに定着を図る必要がある。How many are there balls と書き、balls を置く位置が理解できていない誤答が多かった。
- ・ 1の(2)の正答率は、64.8%である。not as mine as と書いた誤答が多かった。
- ・ 1の(3)の正答率は、37.9%である。my brother があるにもかかわらず、The little boy is wearing a cap と完結した英文を書いた誤答が多かった。
- ・ 2の②の正答率は、65.0%である。綴りの間違いは多く見られたが、無解答はなく、書こうとする意欲がうかがえる。
- ・ 2の③は15語以上で書く表現力を問う問題であるが、無解答が少ないことから、全般的には与えられた条件にしたがって積極的に書こうとする意欲が感じられる。ただし、正答率が49.9%であることから、読み手に正しく伝わるように書く力はまだ定着していないと考えられる。

### 〈今後の指導〉

- ・ 言語材料の基礎的・基本的事項については、繰り返しの指導によって定着を図る。
- ・ 具体的な場面や状況の中で話題を設定して、考えや意見をまとめてから英語で書く練習をさせるなど、自分の意向が読み手に対して正しく伝わるように、まとまりのある内容の文章を書かせる。
- ・ 文型や文法事項を意識して、話したり・書いたりする練習を繰り返し行うことで、定着を図る。

### 5 〈標準解答〉

1	(1)	ウ	(2)	イ	(3)	ア		
2	(例) たくさんのよい友達をつくってもらいたいと願っていたから。							
3	国 枝 選 手 が 車 い す に 乗 り 、 テ ニ ス コ ー ト を す ば や く 動 き 回 っ て い た こ と 。(例)							
4	エ							
5	イ							
6	ウ							
7	1	tennis	2	world	3	(例) showing	4	future

### 〈ねらい〉

比較的長い英語の文章を読み、内容に関する質問の答えを選んだり、英文の内容を日本語で説明したり、要約文を完成したりすることなどを通して、文章の概要や要点を読み取る能力をみる。

### 〈考察〉

- ・ 大問全体の正答率は、56.0%で、昨年度と比較してかなり上昇した。(昨年度37.6%)。
- ・ 1の正答率は、68.4%と高い。ただし、(1)が85.4%、(2)が74.5%、(3)が45.4%と本文の後半の内容となるにしたがって正答率が低くなっている。
- ・ 2の正答率は、72.0%と高い。無解答がいるものの、第1段落の下線部の前後を正確に読み取れば、正答できる問題であった。
- ・ 3の正答率は、46.8%と低い。無解答も多かったが、誤答としては動詞の *move* との組み合わせで前置詞の *around*、そして副詞の *quickly* などを正確に訳出できなかったものが多かった。また、*That* の指す内容をかなり離れたところに捉えた誤答も見られた。
- ・ 4の正答率は、38.5%と低い。「適切でないもの」を選ぶ問題であったが、イを選んだ誤答が多かった。問題文の正確な読み取りができなかったと考えられる。
- ・ 5の正答率は、61.0%である。2つの空所に適切な単語を挿入する問題であるが、空所の後の *and* の前後の形が同じであることに気づいた上で、その英文全体の意味を理解する必要があるため、誤答も多かった。
- ・ 6の正答率は、83.0%とかなり高い。馴染みのある表現であるので、取り組みやすかったと思われる。空所の前だけを読むのではなく、空所の後まで確認することで文脈にそった内容理解が深まり正答を導けるとと思われる。
- ・ 7の全体の正答率が4割に達していないことから、全体の内容を深く理解し、要約する力が不足していると同時に、英文の内容は変えずに別の表現で書き換える力が不足していると思われる。特に3と4が正答率が低かった(それぞれ2.7%、13.4%)。

### 〈今後の指導〉

- ・ 限られた時間の中ですばやく英文に目を通したり、意識的に特定の情報を探しながら精読させたりするなど、目的に合ったさまざまな読み方をさせる。
- ・ 段落ごとの概要を読み取る、本文中の表現について具体的に日本語で説明する、ある表現に込められた登場人物の心情を読み取るなど、授業の中で適切に指導をする。
- ・ 英文全体の段落構成や、段落ごとのつながり、さらには文と文のつながりなどを意識させて読ませる工夫をする。
- ・ 語彙力・文法力の習得を確実にしながら、段落ごとの要約を書かせたり、英文全体を簡単な英語でまとめさせたりするなどの指導を工夫する。